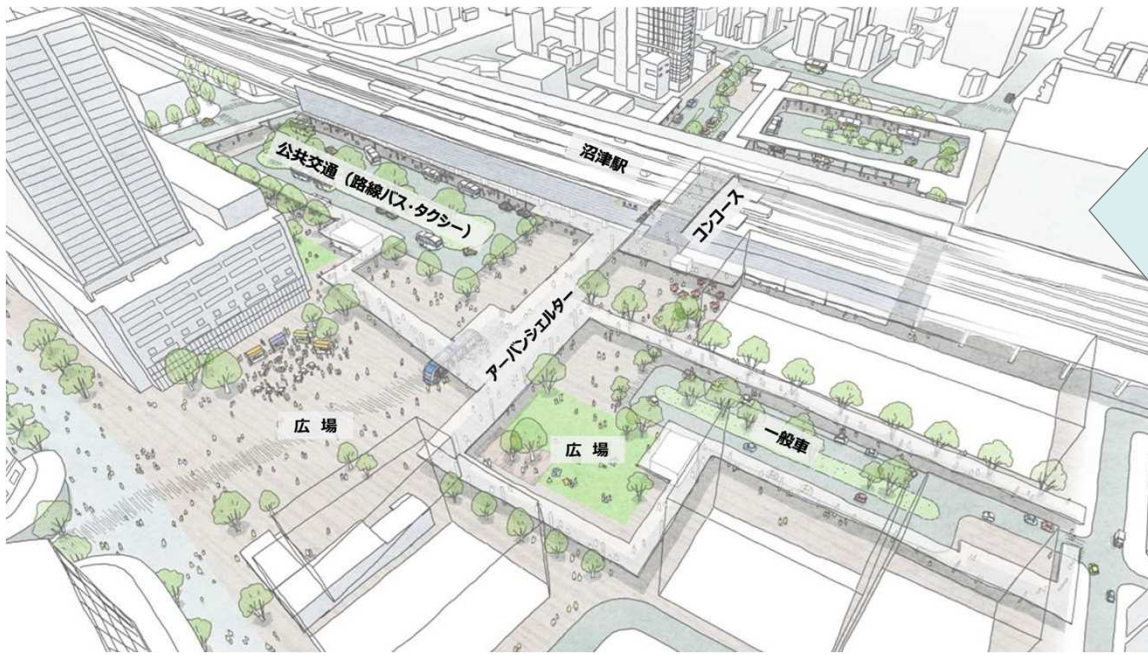




鉄道高架事業で生まれる新しい駅前空間

2026年度末を予定している「沼津駅舎・駅前広場等デザイン基本計画」の策定に向け、デザインイメージ案が作成されました。今後、市民の声の聴取やデザイン検討会議での議論および各所との協議を進め、駅前の未来を形にしていきます。



この図は沼津駅南口の様子です。鉄道幅が80m→49mに縮小され、駅南側に新しい土地が生まれます。

公共交通(路線バス)は南口に集約と一般車は分離して配置し、駅・広場・車ゾーンをつなぐ屋根通路や、駅と港を結ぶ次世代モビリティを導入予定です。

12月1日の本会議で行った一般質問の内容をご紹介します

「放課後児童クラブ」と「高齢者福祉の増進」のテーマを取り上げています。質疑の様子は沼津市議会ウェブサイト(右記QR)で視聴可能です。



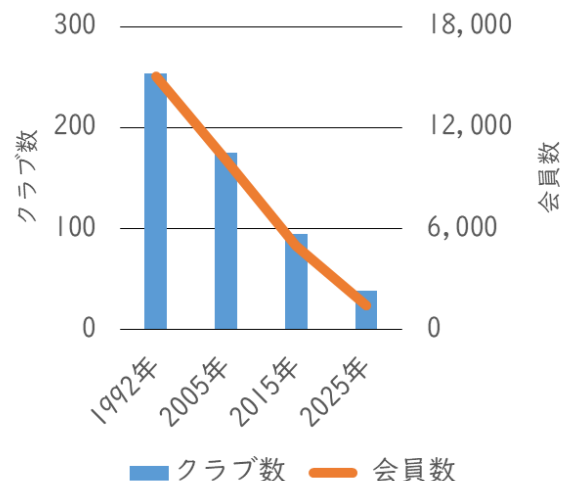
高齢者の方々の活動をもっと広く支援するために

老人福祉を増進する活動は、沼津市老人クラブ連合会に加入する老人クラブ・未加入の老人クラブ・その他団体で担われていますが、補助金の対象は連合会加入クラブに限られています。

2025年4月時点の60歳以上人口73,359人に対する会員は1,429人で、約98%が補助を受けられていません。公平な仕組みづくりのため、改善を求め続けます。



連合会に加入している老人クラブ数と会員数の推移



専門事業者の運営が始まった放課後児童クラブの状況について

放課後児童クラブは、労働等の理由により保護者が昼間家庭にいない小学生の放課後や長期休み中の生活を保障する事業です。

2025年4月からの運営体制変更を踏まえて、市の取組を問いました。



開所時間延長で利便性アップ

これまでの提言の成果として「クラブ毎の考えて延長も可」となっていました。実績はほぼありませんでした。

今年度から利用できる時間が延長となり、市内の全てのクラブで平日は1時間遅い閉所、長期休みは30分早い開所となりました。平日の延長された時間帯の利用者は、18:00～18:30が47%、18:30～19:00が10%となっています。

待機児童解消に向けた柔軟対応

クラブの定員を超えていても、欠席児童や学年による下校時間の違いなどを考慮した柔軟な対応が必要だと考え、その取組を求めてきました。

特に利用者が多くなる長期休みについて、学区を超えて受け入れる態勢の有益性を訴えていましたが、今年度初めて余裕のあるクラブへの他校区の待機児童10名の受入れが行われました。

運営体制変更による改善は進んでいますが、課題も残ります。運営の質を測る指標(KPI)の設定や、利用実態に応じた負担の仕組み(現状は延長時間の利用状況に関わらず一律の利用費)の検討を求めています。また、利用者の声を反映するため、連絡アプリによるアンケート調査の早期実施も必要です。現時点では声の把握が十分ではありません。



© SA-YA

その他議会で取り扱った内容について

広報ぬまづ、2026年4月から刷新

広報ぬまづのデザインや紙面構成を新しくします。また、現在の月2回発行から月1回発行に変更し、自治会の負担軽減や印刷製本費・配送料の低減をはかります。

発行回数を減らす一方でページ数を増やしますので、掲載する情報量に変わりはありません。LINEによる情報発信や市ホームページへの誘導をするなどの取組も進めます。

公共施設の利用料金改定

沼津御用邸記念公園・大岡公園や愛鷹運動公園のテニスコート・斎場について、市外の方は利用料金が引き上がり、現状の2倍程度となります。

市税を負担していない市外の方には、施設維持費の一部を利用料金で負担していただくという考え方です。全国の市町でも、同様の考え方で料金設定がされています。



ぬまづ
昔ばなし

高齢者団体への支援について、市は「連合会加入クラブが縮小する取組には慎重」との姿勢ですが、約98%が対象外という現状は公平性の面で課題です。これまでの連合会加入クラブの役割に感謝しつつ、制度の見直しが必要と考えます。ぬまづ昔ばなし 第12巻 幽霊舟(第三地区)は12月発刊予定です。

